

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23611022

研究課題名(和文)『汎美計画』から芸術工学へ、デザインイデオログとしての小池新二研究

研究課題名(英文) Study on Shinji Koike as a design ideologue to the art and technology from "Hanbi-Keikaku" meaning pan beautiful plan.

研究代表者

藤原 恵洋 (FUJIHARA, KEIYO)

九州大学・芸術工学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50209079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：1943年小池著『汎美計画』を契機に千葉大附属図書館「小池新二文庫」の分析評価を継続。門下のデザイナー(千葉大系列・九州芸工大系列)、関係者、先行研究者へ聴聞調査。平成26年度九大公開講座「汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～」企画実施し「小池新二研究フォーラム」結成へ。2018年度九州芸工大創設50周年記念「小池新二展」企画立案・資料調査を開始。文化経済学会 日本 2015東京研究大会「日本の戦前戦後を『汎美計画』で結んだ小池新二における産業デザイン振興と生活デザイン啓蒙～文化経済学的視点からの再評価～」を発表。

研究成果の概要(英文)：Analyzing of the Chiba University library "Shinji Koike library" is continued taking Koike work "Hanbi-Keikaku" in 1943. Listening is investigated to designers (Chiba University OBOG and Kyushu Institute of Design OBOG), and preceding researcher. Kyushu University open college "the story surrounded between postwar and prewar of Shinji Koike Kyushu Institute of Design the first president to Geijyutsu-Kougaku from a Hanbi-Keikaku-" planning is hold in 2014, and it's to "the researching forum for Shinji Koike" organization. I make Kyushu Institute of Design foundation 50th anniversary commemoration "Shinji Koike exhibition" plan in 2018\*, and resource research is begun. I will report of the association of cultural economics <Japan> 2015 Tokyo research meeting "The study on industrial design promotion in Shinji Koike who tied the postwar with Hanbi-Keikaku in the Japanese prewar days and living design enlightenment-revaluation from the association of cultural economics viewpoint".

研究分野：デザイン学

キーワード：小池新二 汎美計画 芸術工学 技術の人間化 海外文化中央局 千葉大学工学部工業意匠学科 九州芸術工科大学 日本文化工作連盟

## 1. 研究開始当初の背景

筆者は日本近代建築史学に出資を有する。研究の視座としては19世紀以降の幕末・明治の日本近代期における近代化過程を、建築・都市・産業・生産・技術・芸術表現・生活デザイン等の幅広い諸相を交錯させながら跡づけていく。その中でも日本の近代化過程を実証する視点の多くがポストコロニアル理解とも言える立場に依拠し、これまでの研究課題の着想の多くをこうした批判的日本近代史観から得てきた。

本研究は筆者の批判的日本近代史観に立つ。すなわち昭和戦前戦後を貫き欧米社会からの知の摂取と理解に奮迅した小池が日本固有の文化資源への洞察と理解を深め、近世期より連綿として無批判に継承されていた旧来の手仕事や産業工芸の評価と批判を行う中、プレ工業化社会的課題と機能主義・合理主義を体現しながら来るべき工業化社会を構想しながら、その発展すべき方向性を広く国民へ向け啓蒙すると同時に国家産業的な指針として打ち出していく。こうした小池の社会発展観は、第二次戦争の戦禍を経ながらも、廃墟と化した戦後生活空間の復興という大きな社会的使命を帯びながらより明快なものとなっていく。その結果、旧態依然とした生活相や産業工芸から新たな産業デザイン振興と生活デザイン啓蒙へ向け、極めて独創的な観点から弁証法的科学技術観としての「技術の人間化」を打ち立て、新たな大学創建を導くための基本理念として育む。小池の強靱で長い足跡を折り返すものが論集『汎美計画』であり、戦時中の国民啓蒙書としては異色であった。

本研究に着手する頃、千葉大学附属図書館に所蔵された小池文庫の社会的意義や研究契機としての役割を再度検討する必要が出てきた。そこで本研究は、小池研究を軸にして、あらためて近代日本における他者とも言える欧米文化の表徴としての衣食住すべての領域に関わる広義のデザインの受容と自立化・内在化に関するポストコロニアル批判的な到達点を目指した。小池新二の足跡は把握しがたい広領域性や轉換性を有すが、本研究で獲得された視座と知見は貴重な研究資源となる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国のデザイン史領域における近代主義の本質的な意義と表徴を、戦前戦後を繋ぐデザインイデオログであった小池新二の足跡に照らしあわせ批判的に検証することを目的としている。

ドイツ・ワイマールに始まるバウハウス運動に代表される近代主義デザインの間接的な影響下、1920年代以

降、戦前戦後を結び、それらを断続的な別の事象と捉えずに、あらためて近代日本における他者とも言える欧米文化からの衣食住すべての領域に関わる広義のデザインの影響と受容の過程において、主体的な理解と自律的な応用によって成し遂げて行った日本的近代化過程とも言えるポストコロニアル的事象を跡づけていく。

## 3. 研究の方法

(1) 小池著『汎美計画』及び千葉大学附属図書館「小池文庫」収蔵史料・図書の書誌学的分析

小池新二が弁証法的に「芸術工学」概念を提示した文脈を辿り、初原を1943年(昭和18)発行の論集『汎美計画』に求めていく。欧米からの建築・デザイン系情報を積極的に取り寄せ、訳出・翻訳しながら、重要な情報へのインセンティブを与え、日本国内に向けニュース・新刊紹介・書評といった啓蒙活動を重ねた。「建築世界」「国際建築」をはじめ戦前期を代表する専門誌を媒体として建築・デザインを皮切りに、科学全般、物理、化学、哲学、宗教、芸術、政治、経済、技術、家庭等、幅広い領域に及び「汎美」にふさわしい活躍ぶりであった。

・元神戸芸術工学大学教授森下明彦氏、金沢美術工芸大学教授森仁史氏、千葉大学OB孫大雄氏等、先達、関係者への聴聞調査。

・小池「海外中央文化局」が千葉大学附属図書館「小池文庫」へ移動した経緯に関する聴聞調査

・小池新二門下の千葉大学OBOGデザイナー、教員、実務家、関係者への聴聞調査。

(2) 小池新二における戦前期デザイン観の批判的検証・デザイン史学専門家や関係組織との交流を通し議論の機会を獲得、批判的検証。

(3) 「芸術工学」概念想起に関する考察。

・九州芸工大系OBOGデザイナー、教員、実務家、関係者への聴聞調査。

(4) 戦前戦後を貫く国際情報交流の調査。

・調査国：イギリス、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、オランダ、ドイツ、チェコ、アメリカ、中国、韓国

・デザイン・建築系大学、デザイン振興機関、工房、手仕事職人、博物館・資料館、デザインミュージアム、デザインショップ等へ訪問調査。小池が東京都小金井に位置する自宅を拠点として主宰した「海外中央文化局」活動により蒐集された国際情報交流の情報源を調査。

(5) 九州大学芸術工学部公開講座(学内外及び市民対象)を通し研究成果のフィードバック。

(6)「小池新二研究フォーラム」構築および研究プラットフォームの整備と研究成果の最大化。

・先行研究の探索と研究交流ネットワークの構築。

#### 4. 研究成果

(1)2011年度より2014年度にかけ千葉大学附属図書館所蔵「小池文庫」の史料・図書の書誌学的分析実施を実施した。小池が所蔵した7000冊を超える蔵書には欧米を初めとする海外から直接送付された原書が多数含まれており小池分析に欠かせない。戦前期発行書誌も数多い。貴重なコレクションを構成するものと言える。今後、カテゴリーを構築し収蔵概況を定量的に分析する。

海外デザイン事情や国際間情報を書籍や印刷写真等を通し獲得する必要があった。そこで小池はイギリスRIBA(王立建築家協会)に範をとり、みずからの自宅を「海外中央文化局」と銘打ち、欧米発行の最新書籍やグラフィック誌等を送付させた。多くが無償で送付される寄贈誌扱いであった。「小池文庫」には送付された際の伝票が含まれる。森下研究によれば海外からの送信元や発行元に対して日本国内発行図書を送付することもあり、それが機縁となり、海外で翻訳出版された。英語、ドイツ語の語学力が優れた小池が果たした情報インタープリターとしての仲介役が注目できる。

海外情報を詳細に翻訳もしくは抄録としながら国内の専門誌に紹介することが重要であったが、その際に原書の図版を積極的に転載。「小池文庫」所蔵原書には図版転載に渡る指示も見られる。また小池がみずから読解した痕跡として「赤鉛筆」が随所に見られる。『新興家事学』原書、クルトプランデンブルガ著『人造臓材料の話』原書等に赤鉛筆痕を認めた。

蔵書と専門誌誌類は、1927年、小池が妻直子と結婚した際に新築した小金井自宅に所蔵。蔵書が増え庭の一角に書庫を増築。九州芸工大学長を2期つとめ1974年に退職した後、家屋を新築。1981年に小池が逝去、翌82年に妻直子が逝去した後、夫妻遺族が千葉大学吉岡道隆教授と協力して千葉大学へ寄贈した。

(2)千葉大学附属図書館における「小池文庫」および九州大学芸術工学部所蔵の戦前期小池新二の言説構築の背景に関する論考は九州大学公開講座時に提示した。

(3)主として千葉大学附属図書館「小池文庫」の史料・図書の分析ならびに九州芸工大所蔵資料を通して、小池の弁証法的態度を辿る。森下研究が逸早く先鞭を付けており重要な示唆を多く発している。その結果、小池は戦前期の言説で「芸術科学」といった言辞を示している。

一方、「技術の人間化」は、1968年(昭和43)九州芸工大が創設された際の大学基本理念である。戦後復興期から高度成長期へ至る日本の技術革新は工業化・産業化・経済化を進展させ大量生産と大量消費を促し、モノを通した豊かな日本を生み出した。一方、深刻な公害の発生や地方衰退といった負の遺産も生じポスト工業化社会への道筋を示す必要が生まれた。森下研究によれば、小池の言説には「Missing Technician」を通して独特のデザイン及びデザイナー観や技術・産業観が見られる。戦後発展の反省を求められる時代に「技術の人間化」を標榜し「芸術工学」概念の創出を促した小池の貢献は大きかったと言えよう。

#### (4)国際情報交流(個別の訪問調査先は省略)

2011年12月~1月 北欧4ヶ国(フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク)およびオランダ

2012年12月~1月 ドイツ、チェコ 2012年3月、2013年3月、2014年3月 アメリカ 2012年9月 イギリス 2013年11月 中国 2013年10月、2014年6月、台湾

各国では、関連するデザイン振興機関、教育機関・学校、プロダクトデザイン・建築設計・ランドスケープデザイン・造園等の実務事務所、ものづくり及びデザイン工房、手仕事職人等への訪問調査も随時実施した。

こうした国際調査では、小池が1931年樹立した「海外中央文化局」に世界各国から蒐集したデザイン専門誌の所在に注目、その出典先の照合及び当時の小池が抽出したデザイン情報の質的内容を検討した。しかし現地での限られた時間による訪問調査は十分ではなく、書誌学的比較検討の成果を獲得することはできていない。ドイツ・チェコのデザイン系博物館・美術館・大学図書館、資料館等を訪問調査時に『汎美計画』に掲載された事例や影響を与えたと考えられる物件を確認できた。

とりわけ小池が注目していった北欧やドイツ、オランダ等では、おしなべて戦前戦後と決して不連続ではなく、戦前の手仕事・工芸的な状況が、戦後へ緩やかに継承されながら暫時発展し、その後の工業化過程を自律的に受容していった近似の様相を知ることとなった。

他方、アメリカ合衆国調査時、カナダ・トロントで国際アジア学会に出席、米国ジョージタウン大学教授で戦前期日本の生活文化研究者Jordan Sand博士の協力と全米の研究者への連絡というご支援を得た。

(5)九州大学芸術工学部公開講座(学内外及び市民対象)を通し研究成果のフィードバック

九州大学芸術工学部公開講座 2014 年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師:藤原恵洋 汎美計画とは何か?芸術工学の創造者小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想 2014 年 10 月 14 日 会場:九州大学芸術工学研究院 531 教室 (以下同じ)

同上～講師:藤原恵洋 特別講師:森下明彦 小池新二論 MISSING TECHNICIAN から「技術の人間化」へ 2014 年 10 月 28 日 同上～講師:藤原恵洋 特別講師:諸星和夫 小池ワールドへの邂逅 2014 年 11 月 11 日 同上～講師:藤原恵洋 特別講師:武田芳明 渾沌からのデザイン 2014 年 11 月 25 日 同上～講師:藤原恵洋 特別講師:安永幸一 アジア美術への射程 2014 年 12 月 9 日 同上～講師:藤原恵洋 汎美計画ワークショップ 2014 年 12 月 24 日 以上、毎回のビデオ映像を作成。九州大学芸術工学部公開講座 2014 年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その 2)平成 27 年 10 月 7 日(水)デザインイデオログとしての小池新二:『汎美計画』から「芸術工学」へ 同上～戦前期小池新二によるデザイン振興戦略～海外文化情報局のオーガナイザーとして～ 同上～戦前期小池新二によるデザイン振興実践～日本文化工作連盟の先導者として～ 同上～戦後小池新二による産業デザイン振興～デザインによる戦後復興プロモーターとして～ 同上～戦後小池新二によるデザイン教育拠点揺籃～千葉大学工学部工業意匠学科教授として:工芸学部から工学部へ～

同上～戦後小池新二によるデザイン教育拠点揺籃～九州芸術工科大学設立準備室長・初代学長として:技術の人間化と混沌神話～

(6)「小池新二研究フォーラム」の構築および持続可能な研究プラットフォームの整備と研究成果の最大化。

小池新研究交流ネットワークの構築を展開。2015 年度秋期第 1 回研究会開催「小池研究フォーラム」を構築。

[1] 森下明彦「九州芸術工科大学初代学長、小池新二についての断片的報告「芸術工学」の理解のために『Art and Technology』第 1 巻 2004

[2] 孫大雄『デザインにおけるクロスファーターライゼーションを主唱した小池新二～21 世紀に求められるデザインのあり方に関する研究』千葉大学博士論文 2008 同論文は孫大雄・宮崎清・植田憲・樋口隆之らに

よる一連の小池研究に基づき、『デザイン学研究』に 3 論文が上梓された。

[3] 船曳悦子、梅宮弘光「日本貿易産業博覧会(神戸博、1950 年)の会場計画委嘱経緯について」同「日本貿易産業博覧会(神戸博、1950 年)における小池新二の博覧会シナリオと新制作協会建築部会場設計について」他 日本建築学会学術講演梗概集 2002

[4] 森仁史「日本デザインの戦後史～貫戦史からの展望」『戦後日本デザインの奇蹟 1953～2005 千葉からの挑戦』千葉市美術館 2006

[5] 片野博他「九州芸術工科大学設立に至るまでの審議経過を通して」『芸術学研究』第 2 号 2000

[6] 『九州芸術工科大学 35 年史 芸術工学源流から沃野へ』2003

[7] 池亀拓夫監修『甦れ! 混沌! 甦れ! 小池ロマン!』1991 年小池新二フォーラム横浜『あれから十年・小池新二先生を偲ぶかい』開催記念出版

[8] 特集「九州芸術工科大学初代学長小池新二のロマン!」『ARTing 福岡・芸術文化の創造と思考』No.10 2013.12.24

また小池新二を囲んだ知的交流サロン「よろず会」が延べ 180 回にわたり開催されていたことが判明。小池門下の幅泰治、宇賀洋子、山口泰子等に提唱され 1965 年に創設、小池が 1968 年九州芸術工科大学に着任する以前より幅広い人脈を有し講師を立てサロンを開催。1981 年小池逝去後も継承され、小池誕生 100 周年を記念するかたちで 2001 年まで延べ 180 回継続開催された。

[1-聴聞調査の主たるインフォーマント]

佐藤陽彦 人類学者・九州大学名誉教授

片野博 建築家・九州大学名誉教授

石川幸二 彫刻家・元九州大学教授

香山壽夫 建築家・東京大学名誉教授・元九州芸工大助教授

池亀拓夫 デザインプロデューサー・九州芸工大環境設計 1 期生・九州産業大学大学院教授

森下明彦 メディアデザイナー・九州芸工大画像設計 6 期生・元神戸芸術工科大学教授

武田芳明 ギャラリスト・九州芸工大画像設計 2 期生  
森仁史 デザイン史・金沢美術工芸大学柳宗理記念デザインミュージアム館長

孫大雄 韓国デザイン心理学研究所主任研究員

中谷正人 建築ジャーナリスト・千葉大学客員教授・元『新建築』編集長

笠原一人 建築史・京都工芸繊維大学助教  
梅宮弘光 建築史・神戸大学教授  
安永幸一 美術史・元福岡アジア美術館館長・顧問  
都築弘樹 デザイン史・九大大学院博士後期課程在籍  
永井敬二 インテリアデザイナー・デザインコレクター・永井コレクションオーナー  
石村眞一 デザイン史・造形史・郡山短期大学教授・九州大学名誉教授  
藤森照信 建築史・建築家・東京大学名誉教授  
堀勇良 建築史・元文化庁建造物課  
[2-よろず会キーパーソン]  
宇賀洋子 千葉大工業意匠学科卒3期生、宇賀洋子デザイン事務所所長  
幅泰治 千葉大工業意匠学科研究生修了、日立化成デザイン部  
山口泰子 千葉大工業意匠学科卒7期生、クラフトデザイナー、クラフト・センター・ジャパン事務局長、グループモノ・モノ代表を歴任。  
諸星和夫 千葉大工業意匠学科卒7期生、元トヨタ自動車デザイン部長、米国 CALTY 社長、1989 年開催名古屋世界デザイン会議議長等を歴任。

## (7) 結論

本研究では『汎美計画』を通して、戦前期における世界の多彩な産業工芸活動の動向を小池新二の言説に基づき把握した。私的に設立した国際情報収集機関「海外文化中央局」蒐集による数多くの資料写真図版等を根拠として「汎美」概念を訴えており、終戦から戦後復興へ至る日本独自のデザイン振興を導く鍵となった。戦前期の日本の産業工芸の現場と産業革命の欧米社会で成長した近代期工業化デザインの先導的事例を結びつける情報媒介と啓蒙の両方を果たしたことを探求した。また小池は時代を画するデザイン・メディアを操ったが、デザインイデオログとして重要な観点である。

戦後はデザイン教育機関の創建や整備に力を発揮。1950年、戦前期東京高等工芸学校の後身として新たに千葉大学工芸学部が組織された。小池は千葉大学教授として造形論・造形史を担当。着任の翌年、工芸学部を工学部へ改組し工業意匠学科を創設、戦後復興期から高度成長期へ至るデザインの最高峰の高等教育機関となった。イデオログとして堂々たる啓蒙啓蒙機関としての教育現場に立脚することができた。

1968年、九州芸工大創立時、小池新二は初代学長として「芸術工学」概念や「技術の人間化」理念を示した。

戦前期『汎美計画』から連続するかたちで「芸術工学」ならびに「技術の人間化」への発展的な昇華作用を見る。ポスト工業化社会を射程に入れ「芸術工学」創出へ牽引していった小池新二のデザインイデオログとしての役割は見事に展開していった。

引用文献 千葉大学附属図書館『小池文庫目録』1986。1981年小池新二逝去、1982年妻直子逝去後に小池夫妻遺族から寄贈された旧蔵書。工芸、民俗、民藝、デザイン、芸術、建築、社会、地誌、山岳、民族、文学等、多岐に渡るジャンルを横断的に包含。国内外の図書7000冊余、雑誌600タイトルから構成。同上図書館HP 千葉大学附属図書館所蔵「小池文庫目録」小池夫妻遺族から寄贈された旧蔵書を対象として千葉大学工学部工業意匠学科により整備され「小池文庫目録」として発行された。千葉大学附属図書館「旧高等工芸学校叢書」同大学前身のひとつ東京高等工芸学校旧蔵書。小池新二略年譜 出典：日本美術年鑑昭和57年版(273-274頁)  
5. 主な発表論文等

[公開講座における口頭発表]

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師：藤原恵洋 汎美計画とは何か？芸術工学の創造者小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想 2014年10月14日 会場：九州大学大学院芸術工学研究院531教室

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師：藤原恵洋 特別講師：森下明彦 小池新二論MISSING TECHNICIANから「技術の人間化」へ 2014年10月28日 会場：九州大学大学院芸術工学研究院531教室

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師：藤原恵洋 特別講師：諸星和夫 小池ワールドへの邂逅 2014年11月11日 会場：九州大学大学院芸術工学研究院531教室 九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師：藤原恵洋 特別講師：武

田芳明 渾沌からのデザイン 2014年11月25日 会場:九州大学大学院芸術工学研究院531教室 九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師:藤原恵洋 特別講師:安永幸一 アジア美術への射程 2014年12月9日 会場:九州大学大学院芸術工学研究院531教室

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者 小池新二九州芸術工科大学初代学長の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語～講師:藤原恵洋 汎美計画ワークショップ 特別講師(ビデオレター出演):池亀拓夫 2014年12月24日 会場:九州大学大学院芸術工学研究院531教室

[学会における口頭発表(予定)]

藤原恵洋「日本の戦前戦後を『汎美計画』で結んだ小池新二における産業デザイン振興と生活デザイン啓蒙～文化経済学的視点からの再評価～」文化経済学会(日本 2015東京研究大会、駒澤大学、2015年7月5日

[公開講座における口頭発表(予定)]

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年10月7日(水)デザインイデオログとしての小池新二:『汎美計画』から「芸術工学」へ

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年10月21日(水)戦前期小池新二によるデザイン振興戦略～海外文化情報局のオーガナイザーとして～

九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年11月4日(水)戦前期小池新二によるデザイン振興実践～日本文化工作連盟の先導者として～九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年11月18日(水)戦後小池新二による産業デザイン振興～デザインによる戦後復興プロモーターとして～九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期

デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年12月2日(水)戦後小池新二によるデザイン教育拠点揺籃～千葉大学工学部工業意匠学科教授として:工芸学部から工学部へ～九州大学芸術工学部公開講座 2014年度後期公開講座 汎美計画から芸術工学へ～芸術工学の創造者小池新二の戦前期デザイン思想と戦後の実践を巡る物語(その2)平成27年12月16日(水)戦後小池新二によるデザイン教育拠点揺籃～九州芸術工科大学設立準備室長・初代学長として:技術の人間化と混沌神話～[研究フォーラム企画]

2015年11月4日(水)「小池新二研究フォーラム」開催。講師:藤原恵洋 記念講演会講師:孫大雄博士(韓国デザイン心理学研究所)

[展示企画]2018年度九州芸術工科大学創立50周年記念展覧会「小池新二展」(仮称)会場:福岡アジア美術館8階交流ギャラリー展示室 2018年6月(予定)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤原恵洋 (FUJIHARA Keiyo)

九州大学・大学院芸術工学研究院・教授  
研究者番号:50209079

### (2) 研究協力者

池亀拓夫 (IKEGAME, Takuo)

森仁史 (MORI, Hitoshi)

森下明彦 (MORISHITA, Akihiko)

武田芳明 (TAKEDA, Yoshiaki)

諸星和夫 (MOROHOSHI, Kazuo)

安永幸一 (YASUNAGA, Koichi)

石村真一 (ISHIMURA, Sinichi)

藤森照信 (FUJIMORI, Terunobu)

堀勇良 (HORI, Takeyoshi)

孫大雄 (SONG, Deayu)

宇賀洋子 (UGA, Yoko)

幅泰治 (HABA, Taiji)

山口泰子 (YAMAGUCHI, Yasuko)

安永幸一 (YASUNAGA, Koichi)

永井敬二 (NAGAI, Keiji)

都築弘樹 (TSUZUKI, Hiromi)

中村享一 (NAKAMURA, Kyoichi)

國盛麻衣佳 (KUNIMORI, Maika)

岩井千華 (Iwai, Chika)

吉峰拓 (YOSHIMINE, Hiromu)